



ひだこっぱん



なかちゃん



ひだこっぱん

WEB・Instagram  
Facebook・LINEは  
コチラから

ひだこっぱん

高山市末広町12 喜十郎屋旅館  
TEL.080-6798-8349(平日10:00~17:00)  
【開催日】毎月第3木曜 12:00頃~  
できれば予約を。数に限りがあるので  
当日は問い合わせください。

【料金】ドネーション制(寄付型)目安 おとな300円・こども100円)

<協力のお願い>  
思いやり食材／ボランティア／会場や倉庫などの無償貸与  
※まずは電話で問合せを▲素材を生かした  
新メニューが  
続々登場!▲おもしや野菜のおすそわけ  
▲元気いっぱいの仲間たち卷頭  
特集

# みんなのこども食堂

10年ほど前に東京で始まったとされる「こども食堂」。  
現在は飛騨地域にも多くのこども食堂があります。

## ひとりのつぶやきから 立ち上がった仲間たち

「私たち、もうちょっと何かで  
きるんじゃない?」 気の合う仲間  
同士の会話から「ひだこっぱん」  
は生まれました。「誰でも立ち寄  
れる居場所を作りたい」という思  
いに皆が共感し、高山市などの助  
成金を受けて、昨年6月に子ども  
食堂をスタート。9人のメンバー  
を中心に、その時に協力できる  
ボランティアが参加しています。  
会場は代表者 畑中晃子さんの  
実家である旅館を間借りし、調理  
器具を持ち寄り、食材は農家など  
からの寄付による「思いやり食材」  
と、まさにたくさんの善意による  
手づくり。「こどもも、かつてこ  
どもであった方も、どうぞどなた  
さまもお越しください。一緒に食

## 「思いやり食材」を おいしく大切に無駄なく

「地元の農家さんやファミリー  
ストアさとうさんをはじめ、たく  
さんの方が食材の提供や協力をし

てくださいます。そのおかげでメ  
ンバー同士の知恵や工夫でメ  
ニューも広がり、ワイワイと楽し  
みながら続けられます」と畠中さ  
ん。食事の提供を受けた人も「こ  
どもが普段食べないものも喜んで  
食べてくださいました!」などと大好  
評です。

中田さんは「せっかくいただい  
た食材ですので、使いきれない時  
は他の団体さんにもらっていただ  
くなど、連携がスムーズだとい  
ですね。みんなで繋がれるネット  
ワークのようなものがあるとい  
うのも笑顔で呼び掛けます。

「誰がどんな悩みを抱えている  
かわからないので、対象は限定せ  
ず、詮索もしません。子どももお

現代社会のひずみを背景に全国へと波及していきました  
今回は、地元で活動に取り組む方々にお話を伺いました

## みんなが自然に支え合える やさしい場に

118年続く古川キリスト教会  
の牧師である高橋さんが、「まずやつ  
てみよう」と、こども食堂をスター  
トさせたのは5年前。飛騨では先  
駆けとも言えるチャレンジでした。先  
ききっかけは、奥さまの友人で高校  
教師をしている人から「昼食を食  
べているかどうか心配な生徒がい  
るので何かできないかな」と相談  
されたこと。「満足に食べられない  
子どもがいることに驚き、見えない、  
わからない、周囲にも言わないけ  
れど、実は苦しんでいる人たちが  
身近にいると気付きました。だか  
ら何かせねば」と居ても立つても  
いられなくなつたのです。

## ひとりでも初めてでも 気兼ねなく

「誰がどんな悩みを抱えている  
かわからないので、対象は限定せ  
ず、詮索もしません。子どももお

てもらつたりと地道に開催をア  
ピール。やがて飛騨市子育て応援  
課の支援や有志からのカンパも得  
られるようになり、吉城高校のボ  
ランティア活動カリキュラムにも  
組み入れられるなど、地域に浸透  
していました。

## ひとりでも初めてでも 気兼ねなく

「誰がどんな悩みを抱えている  
かわからないので、対象は限定せ  
ず、詮索もしません。子どももお

いいマインドで継続していくた  
め、月一回ではありますが、ずつ  
と続けて、地域の方々が気軽につ  
ながれる場であります。ひとりで  
も初めてでも気兼ねなく来て、お  
いしいご飯を食べて」と、高橋さ  
んは笑顔で呼び掛けます。

## 若宮わくわく食堂



若宮わくわく食堂 代表 高橋愛一郎さん



## 若宮わくわく食堂

飛騨市古川町若宮2-6-45

TEL.0577-73-3802(古川キリスト教会)

【開催日】毎月1回(土曜)

9:00~11:00 学習支援・遊び場提供

11:00~13:30 ランチ

※12/10の開催については問合せを

【料金】無料

&lt;協力のお願い&gt;

思いやり食材／ボランティア

※まずは電話で問合せを

おいしいかったよ!

たしかったよ!



# ボランティアハウス BAKUBAKU



ボランティアハウスBAKUBAKU  
代表 有村直子さん



## ボランティアハウス BAKUBAKU

高山市大新町4-49

TEL.090-7913-5152

【開催日】第2・第4日曜

11:00～15:00

【料金】無料

<協力のお願い>

思いやり食材／ボランティア

※まずは電話で問合せを

ここがあつてよかつたと  
思つてもらえる場所に

「ご飯をバクバク食べて、夢を持つて」という願いを込め、有村直子さんがBAKUBAKUを立ち上げたのは昨年の秋。仕事をリタイアしたことを契機に、「お世話になつてきた地域の皆さまへの恩返しとして、これから的人生は、困つていてる方々の助けになりたい」と行動を起こしました。かくして、自宅を兼ねたボランティアハウスは、第2・第4日曜の昼は「ごども食堂」、火曜の午前中は「じいじも食堂」、さらにはシェアハウス、3階はホームステイと、さまざまなボランティア活動の拠点になっています。

今年1月から始動したことでも食堂は、有村さんを含め6人のメンバーワークで開催。いただき物の食材も活用していますが、そのほかの経費は、有村さんの自費で賄われています。コロナ禍ということもあり、現在食事はパックに詰めて、毎回45食程度を準備。BAKUBAKUで食べても持ち帰つてもよく、届けに材料を買い出しに行つて下ごしらえをし、当日は朝から調理とパック詰めをします。私は料理が好きで、みんな素敵な仲間なので、準備も当日も楽しいです。お金を得るための事業ではなく、困つてない方のためのボランティアだからなんばれなのだと思います」と有村さん。ちなみに、メンバーのうち3人は活動をきっかけに出会つた人たちですが、今では昔からの親友のよう。有村さんは、この1年の活動を振り返りつつ、「人との出会いいや繋かりは、かけがえ

ない大切なものの。人と人のつながりが薄れている現代だからこそ、子どもたちには交流することの楽しさや、手作り料理のぬくもりを知つて欲しい。BAKUBAKUが、子どもにとつても、お年寄りや困難を抱えるおとなにとつても、いい出会いいや安心できる居場所になるといいなと思つています。ここがあつてよかつたと思つてもらえる場所にしたいですね」

「数年前に親ガチャなんていう言葉が話題になりましたが、私も幼少期にそのひとりでした。そういった場合も不運を嘆いて成長するのではなく、どこかで何かあたたかい経験をして気持ちが変わつたり、いろいろな人の優しさにふれて、今度は自分が人に優しくしてもらえる場所にしたいですね」

## あたたかい循環 小さなきつかけに

こども食堂では印象的なエピソードもあります。例えば、不登校になって、お母さんと一緒にこども食堂にやつて来たAさん。その頃、一時期手伝つてくれていた失業中の板前さんに卵焼きの作り方を教えてもらいました。「覚えが早くて上手」と褒められたことが自信を取り戻したようで、家で

お母さんに卵焼きを作るようになります。そして、やがて登校し、修学旅行にも参加でできたのです。当初Aさんに「調理を手伝つてみよかつた」と提案した有村さんは、「本当によかつた」と目を細めます。

なりました。そして、やがて登校し、修学旅行にも参加でできたのです。当初Aさんに「調理を手伝つてみて」と提案した有村さんは、「本当によかつた」と目を細めます。

「数年前に親ガチャなんていう言葉が話題になりましたが、私も幼少期にそのひとりでした。そういった場合も不運を嘆いて成長するのではなく、どこかで何かあたたかい経験をして気持ちが変わつたり、いろいろな人の優しさにふれて、今度は自分が人に優しくしてもらえる場所にしたいですね」

「お父さん、お母さんが忙しい時や、ごはんを作れない時、みんなで遊びや勉強をしたい時は、BAKUBAKUに声をかけてくださいね。また、お困りごとに何かしら力になりたいです。たくさんの笑顔で待っています」と、有村さんは優しく呼びかけます。



▲ボランティアスタッフのメンバー イベント「ふくし探Qウォーク」にて



▲イベント会場でちらし寿司を無料配布



▲農家の好意で芋ほり